

戸別給水用減圧弁GKD-25 取扱説明書

この度は、本製品をお買い上げ頂きまして誠に有り難うございます。ご使用前に、この取扱説明書を熟読し、正しくご使用下さいますようお願い申し上げます。なおこの取扱説明書は、大切に保管して下さい。

安全に関するご注意 (必ずお守り下さい)

減圧弁を安全にご使用頂くため、この取扱説明書に書かれている安全に関する注意事項をよくお読み下さい。

安全に関する注意事項は、減圧弁を指定の使用目的に使用する場合に関するものですので、記されていない使用方法はおやめ下さい。注意事項は、「**注意**」の欄に示しています。

注意 この表示を無視して誤った取扱いをした場合に、人が傷害を負う可能性及び物的損傷の発生が想定される内容が示してあります。

用語の意味

1次側及び2次側という用語が出てきますが、これらの意味を下記に示します。

1次側	減圧弁が設置されている配管において、減圧弁より上流側の配管
2次側	減圧弁が設置されている配管において、減圧弁より下流側の配管

使用目的

減圧弁は、1次側の水道水の圧力を所定の値に下げて2次側へ給水する弁です。

機能・仕様

使用流体	水道水		
設定圧力 (MPa)	0.15	0.2、0.23、0.25、0.28、0.3	0.35、0.4
設定圧力調整範囲 (MPa)	0.15~0.2	0.2~0.3	0.3~0.4
使用流体温度 (°C)	5~80		
最小設定差圧 (MPa)	0.02		
1次側使用圧力 (MPa)	1.0以下		
耐圧試験圧力 (MPa)	テストジグ取付け時 1.75以下		
通水騒音 (db (A))	50以下		

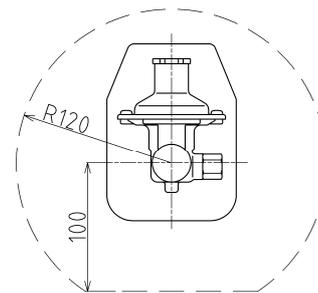


図-1 保守スペース

付属品 (別売りの製品もあります。)

付属品名	備考
保温カバー	保温カバーは、減圧弁の設置されている環境が凍結温度以下になった時に、減圧弁が凍結するまでの時間を延長するもので凍結防止材ではありません。
帯	保温カバーの固定に使用します。

運搬

注意 運搬中の減圧弁の落下などに注意して下さい。損傷の程度によっては漏水や故障の原因となります。

保管

注意 直射日光や雨水を避け、減圧弁の内部にごみやほこりが入らないようにして下さい。機能低下や性能劣化の原因になります。

取付け

〔配管設計上の注意〕

- ・1次側圧力は、「設定圧力+最小設定差圧」以上が必要です。1次側圧力が不足の場合、本製品の性能を保証いたしかねます。
- ・保守・点検の作業が容易に行えるように、図-1に示す保守スペースを設けて設置して下さい。
- ・1次側には呼び径の10倍以上の長さの直管部を設けて下さい。(ただし、配管途中の1次側ボールバルブは直管部の一部と見なして頂いて構いません。)
- ・減圧弁を梱包している保温カバーと帯は設置する時に破損しないように、取り外して下さい。

注意 減圧弁内への異物の噛み込みによる機能低下を防ぐため、立て管内の洗浄を十分に行って下さい。

〔設置後の居室内の配管洗浄〕

注意 居室内の配管洗浄は、テストジグを装着した状態 (図-2)で行って下さい。テストジグを外した状態での配管洗浄は、異物の噛み込みによる機能低下の原因になります。

設置後の検査

注意

- ・減圧弁設置後の施工検査は、テストジグを装着した状態で1.75MPa以下で行って下さい。前記以上の圧力を加えると漏水や故障の原因になります。
- ・洗浄、施工検査終了後はテストジグを取り外して、使用してください。テストジグを装着したままでは、減圧機構が作動しません。(図-2)
- ・保温カバーを使用される場合には、保温カバーの所定の位置にテストジグを保管して下さい。(図-3)

- ・保温カバーを使用される場合には、本体を挟むように保温カバーを取付け、帯で止めて下さい。

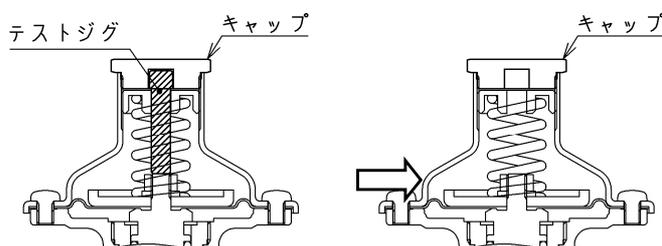


図-2 テストジグの取り外し

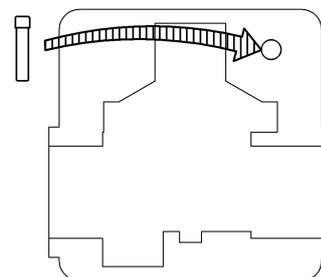


図-3 テストジグの収納 (保温カバー使用時)

保守・点検

減圧弁の性能を長期にわたって保持するために定期的な保守・点検を実施して下さい。
 保温カバーを使用される場合、保守・点検作業を行う前に保温カバーを外し、作業終了後は保温カバー、帯を取付けて下さい。

- 【保守・点検項目】
- ① 設定圧力の確認
 - ② ストレーナの掃除
 - ③ 減圧弁内の異物除去
- 【保守・点検時期】
- ① 住居の引渡し前
 - ② 入居後 2 年毎
 - ③ その他、異常が認められたとき

【保守・点検方法】

設定圧力の確認 (図-4)

- ① 2 次側給水栓を開き、通水を確認した後、2 次側の給水栓類を全て閉める。
- ② 圧力計取付けねじ部の内ねじキャップを外し、圧力計を右回して圧力が表示されるまでねじ込む。
- ③ 2 次側給水栓の 1 ヶ所を開き、水を流してからゆっくり閉める。
- ④ 圧力計で設定圧力を確認する。
- ⑤ 圧力計を左回して外し、内ねじキャップを元の位置に押し込む。

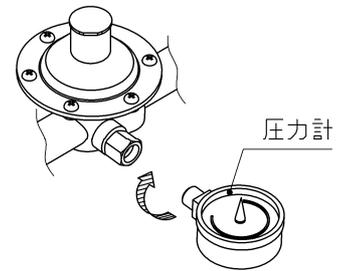


図-4

ストレーナの掃除 (図-5)

- ① 1 次側のバルブを閉じ、2 次側の給水栓類を開いて圧力を抜く。
- ② ストレーナキャップの下に戻り水を受ける容器を置く。
- ③ ストレーナキャップを左回して緩めて抜く。手で回らない場合は、工具を使用し緩める。
- ④ ストレーナの異物を取り除き、元の位置にストレーナキャップを戻し、右回してしっかりと締めつける。
- ⑤ ①で開けた給水栓類を閉じ、1 次側のバルブを開く。
- ⑥ ストレーナキャップ周辺からの水漏れが無いことを確認する。
- ⑦ [設定圧力の確認]を行う。

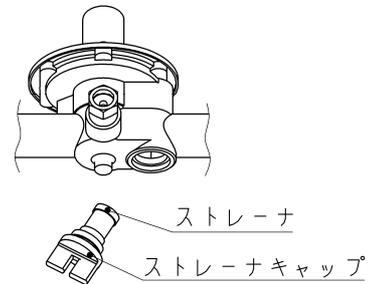


図-5

減圧弁内の異物除去 (フラッシング)

- ① 1 次側のバルブを閉じ、2 次側の給水栓を開いて配管内の圧力を抜く。
- ② 閉じた 1 次側のバルブを 2~3 回繰返し急閉開操作し、勢いよく水を流して異物を除去する。
- ③ [設定圧力の確認]を行い、圧力が設定圧力とならない場合は[ストレーナの掃除]を行った後、上記の操作を繰り返す。

設定圧力の変更 (図-6)

- ① 2 次側給水栓を開き、通水を確認した後、2 次側の給水栓類をゆっくりと全て閉める。
- ② キャップを左回して外す。
- ③ 圧力計取付けねじ部の内ねじキャップを外す。
- ④ 圧力計を右回して圧力が表示されるまでねじ込む。
- ⑤ 2 次側の給水栓の 1 ヶ所を開き、水を流してからゆっくり閉じる。
- ⑥ 圧力計で、2 次側の圧力を確認する。
- ⑦ 調節ねじを設定したい圧力側へ半回転する。設定圧力は、右回して高くなり、左回して低くなります。
- ⑧ 2 次側の給水栓の 1 ヶ所を開き、水を流してからゆっくり閉める。
- ⑨ 圧力計を確認し、希望する設定圧力になるまで⑥~⑧を繰り返す。
- ⑩ 希望する設定圧力を確認したら、圧力計を左回して外す。
- ⑪ 内ねじキャップを元の位置に押し込み、キャップを元の位置に右回して取付ける。

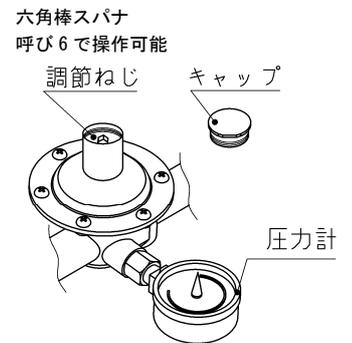


図-6

故障かな?と思ったら

症状に併せて次の処置方法で対処して下さい。

症状	原因	処置方法
水が出ない	1 次側の圧力が不足している	不足の場合は設計業者と打合せを行う
	1 次側のバルブが閉まっている	1 次側のバルブを開く
水の出が悪い	1 次側の圧力が不足している	1 次側圧力を確認し、不足の場合は設計業者と打合せを行う
	ストレーナに異物が詰まっている 給水栓に異物が詰まっている	ストレーナの掃除を行う 給水栓の取扱説明書により異物を取り除く
設定圧力が高い	テストジグを外し忘れている	テストジグを取り外す。
	減圧弁内に異物が詰まっている	フラッシングにより、減圧弁内の異物を除去する
	給水配管内に空気が溜まっている ウォーターハンマの圧力が封入されている	2 次側の給水栓で空気を抜く 2 次側の給水栓をゆっくり閉める
設定圧力が低い	1 次側の圧力が不足している	不足の場合は設計業者と打合せを行う
	2 次側の給水栓が開いている	2 次側の給水栓を閉める
騒音が出る	1 次側の圧力が高い	使用圧力より高い場合は設計業者と打合せを行う
	配管内に空気が溜まっている	2 次側の給水栓で空気を抜く
	減圧弁内に異物が噛み込んでいる	フラッシングにより、減圧弁内の異物を除去する
	給水栓の急閉により、ウォーターハンマが発生している	2 次側の給水栓をゆっくり閉める 水撃緩衝器等を設置する

製品の保証

減圧弁の保証期間は、納入後 2 年間です。保証期間内に故障した場合は、当社の負担により修理いたします。但し、保証期間内でも次の場合は除かせて頂きます。

- ・カタログ、及び取扱説明書に記載されていない使用方法によるもの。
- ・原因が製品以外にあるもの。

定期点検

減圧弁の性能を維持するために 2 年に 1 回の定期点検を行って下さい。

 **前澤給装工業株式会社**

本社 〒152-8510 東京都目黒区鷹番 2 丁目 14 番 4 号 Tel. (03)3716-1511(代表)
<http://www.qso.co.jp>

※当取扱説明書は、製品改良のため変更することがあります。

No. M6023 (3 版)